

科目名	近現代哲学特殊研究	担当者	コサカ 小坂 クニツグ 国継	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	現代は価値観の多様化した時代だといわれます。民主主義があり、社会主義があり、個人主義があり、国家主義があり、精神主義があり、物質主義があります。また科学万能主義があるかと思えば、非科学的な進歩主義やオカルト主義があつたりします。けれども今、私たちが当面している喫緊の課題ははたして人生に意義があるかどうか、また人類の歴史はどのような方向に向かっているのかという問題に対して明確で、かつ前向きな答えをあたえることです。その意味で、現代病というべきニヒリズムの本質を解明し、その克服の道を模索することは、現代人にとってきわめて重要なテーマであるといえるでしょう。この講義はそうした方途を履修者が自分自身で見出すことを目的としています。あらゆる学問のうち、特に哲学においては世界と人生について深い洞察力を身に付け、それを論理的に表現する能力を養うことがもとめられています。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 哲学史について高度に専門的な知識の習得を目標とする。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 レポートの作成にあたっては、基本教材および参考図書の読解に 25 時間以上、Manaba-Folio へのレポートの初稿から最終稿の提出にいたるまでのやり取りに 20 時間以上を目安としてください。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 Manaba-Folio を用いたインタラクティブな添削等を実施します。</p> <p>【学修方略 (LS)】 基本教材を読みこなすにはかなりの時間がかかると思われます。早めに読み始め、いくつかの参考書などを併読することを薦めます。疑問点が生じたら、分からないままに放置しないで、そのつどメールで気軽に質問をしてください。できるだけ早く返事をいたします。 哲学はほかの学問と較べると、文章が難しく、専門用語が理解いづらと思います。哲学辞典などを傍らにしなが、繰り返しテキストを読み返すことを推奨します。</p>		
スケジュール	<p>大学院事務課から指定されるレポート締め切り機関に留意して、最終原稿は指定期間内に提出できるようにしてください。</p> <p>レポートの締め切り間際になってから初稿を提出されると、添削が行き届かない場合も生じます。初稿はなるべく夏休み始め頃までには仕上がるようにしてください。何事も早め早めにおこなうことが肝要です。なお、一度も草稿の添削を受けないで、いきなり最終稿を提出することは認めません。</p> <p>以上のことは後期のレポートについても同様です。冬休み前には、現代哲学の諸動向を自分なりに俯瞰できるよう努力してください。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	①基本教材をよく勉強しているか、②レポートの内容が首尾一貫しているか、③単なる思いつきではなく、書いている内容に裏づけがあるか、④論旨が明快であるか、⑤日本語の文章として美しいか、等の観点から総合的に評価します。
	平常評価	20%	メールでの質疑応答や草稿の提出回数の多寡、あるいはメールのやり取りなどを通して窺われる研究態度などが評価の対象になります。
履修者への要望	哲学を学ぶことは、単にテキストや参考書を読んで知識を習得することではありません。そうした知識を媒介として自分自身で考えることが大切です。「哲学を学ぶ」とは、「自ら哲学することを学ぶ」ことであることを常に銘記してもらいたいと思います。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： ニーチェ 教材名： 『善悪の彼岸』『道徳の系譜』（ニーチェ全集 11）（ちくま学芸文庫，1993 年） ISBN:978-4-48-008081-3 1800 円＋税 『偶像の黄昏』『反キリスト者』（ニーチェ全集 14）（ちくま学芸文庫，1994 年）</p> <p>『善悪の彼岸』と『道徳の系譜』はニーチェが彼の倫理観や道徳観を叙述したものです。また『偶像の黄昏』と『反キリスト者』は彼のキリスト教批判や無神論を直截に展開した著作です。その根底には「超人」として具体化するニーチェの主體的な人間像というか、彼独特の、人間の理想像があります。</p>
参考図書	<p>参考図書としては『ニーチェ全集』（全 15 巻）に収録されている他の諸著作があげられます。またニーチェやニヒリズムに関する書物が数多く出版されていますので、インターネットで検索し、実際に書店で手に取ってみて、自分のニーズに合ったものを読まれるとよいと思います。</p>
履修上のポイント	<p>ニーチェほど多くの人に読まれ、また毀誉褒貶の相半ばする哲学者もめずらしいと思います。それで時間の許すかぎり、多くの研究書や解説書を紐解いて、さまざまな理解の仕方があることを知り、そこから自分自身のニーチェ像を構築していくのがのぞましいと思います。</p>
レポート課題 1	<p>ニーチェの倫理・道徳観の概要を記し、またそれについての自分の意見を述べなさい。</p> <p>留意点： 「生」についての道徳的解釈と芸術的解釈の区別という観点から、あるいは君主道徳と奴隷道徳の区別という観点からレポートを作成すること。</p>
レポート課題 2	<p>ニーチェのキリスト教批判の梗概を記し、またそれについての自分の意見を述べなさい。</p> <p>留意点： ニーチェが持っていた主體的人間の理想像という観点から、彼の無神論やキリスト教批判を論ずること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： ニーチェ 教材名： 『権力への意志(上・下)』（ニーチェ全集 12, 13）（ちくま学芸文庫，1993 年） 上 ISBN:978-4-480-08082-0 1600 円＋税 下 ISBN:978-4-480-08083-7 1800 円＋税</p> <p>『権力への意志』はニーチェの遺稿で、彼が生前、同名のタイトルで書こうと準備していた草稿やノートやメモの類を近親者が整理し、編集して出版したものです。したがって、一冊の本としてのまとまりや統一性に欠けますが、ニーチェの晩年の思想の核心が直截な形で叙述されています。『ツアラトウストラ』とともに、ニーチェの主著であることに間違いありません。</p>
参考図書	<p>参考図書としては『ニーチェ全集』（全 15 巻）に収録されている他の諸著作があげられます。またニーチェやニヒリズムに関する書物が数多く出版されていますので、インターネットで検索し、実際に書店で手に取ってみて、自分のニーズに合ったものを読まれてはいかがでしょうか。</p>
履修上のポイント	<p>『権力への意志』は断片の遺稿集であるということもあって、その全体像をつかむことは容易ではありません。いくつかの研究書や解説本を読んで、それらを手がかりにしてレポートを作成するようにしてください。しかし、その場合も、あくまで自分自身で考えるという姿勢を崩さないことをのぞみます。</p>
レポート課題 1	<p>ニーチェの「ニヒリズム」について、その概要を記し、あわせてそれについての自分の意見を述べなさい。</p> <p>留意点： 能動的ニヒリズムと受動的ニヒリズムの差異が明確になるような形でレポートを作成すること。</p>
レポート課題 2	<p>ニーチェの「権力への意志」について、その概要を記し、あわせてそれについての自分自身の意見を述べなさい。</p> <p>留意点： ニーチェ自身の理想的人間像である「超人」の思想と関連づけて論ずること。</p>